

金融市場NOW

# 国内長期金利（10年国債金利）動向と見通し

## 一時約5年ぶりの水準に上昇 その後低下基調入り

- 米長期金利の上昇加速等が嫌気され、一時5年ぶりの水準に上昇した国内長期金利は、その後、低下基調入り。日米景気動向の違いや日銀の金融緩和策の点検結果が材料視された可能性も。
- 当面の国内長期金利は、米長期金利の動向や国内経済の正常化の動きを睨みながら、ボックス圏での推移となろう。

### (1) 国内長期金利の動向

- 国内長期金利は、バイデン政権の1.9兆ドル規模（約210兆円）の追加経済対策等を背景に米長期金利が上昇ピッチを速めたことや、日銀が3月の政策点検で、長期金利の許容変動幅を広げるとの見方等が嫌気され、2月26日には約5年ぶりの水準に上昇（価格下落）しました。しかしその後は低下基調入りし、上昇傾向にある米長期金利とは異なる動きとなっています（図表1）。以下が国内長期金利低下の主な要因であると思われる。

### (2) 国内長期金利低下の要因

- 米国の消費者物価（前年同月比）がF R B（米連邦準備制度理事会）の政策目標である2%に近づいているのに対し、日本はマイナス圏で推移しています（図表2）。O E C D（経済協力開発機構）予想によると、日本の実質GDP（国内総生産）の回復は米国に遅れるとみられています（図表3）。2月下旬以降、国内長期金利が低下基調となり、日米長期金利の連動性が薄れつつありますが、景気動向の違いが影響しているものと考えています。
- 日銀は3月19日、金融緩和策の点検結果を公表し、これまで0%を中心に「±0.1%の倍程度」としていた長期金利の許容変動幅を「±0.25%程度」に拡大すると共に、その方針を声明に盛り込みました。具体的な数値が明記されたことで、長期金利がそれ以上になった場合には、日銀が金利上昇の抑制に動くとの見方から、金利の先行きに対する不透明感が後退したと思われる。

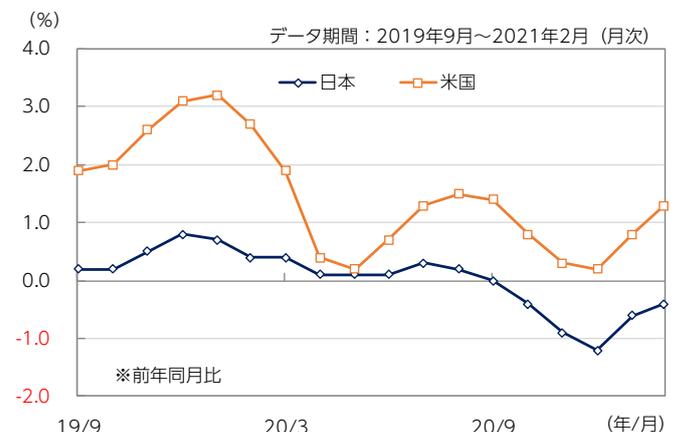
### (3) 国内長期金利の見通し

- 米長期金利の動向等が重荷となり、国内長期金利の低下余地は限られるものと思われる。一方、上記の日銀の方針や、国内景気の先行き見通し等から判断して大きく上昇する可能性も後退したものと考えられます。当面の国内長期金利は、0.05%~0.1%程度のボックス圏で推移するものと見ています。

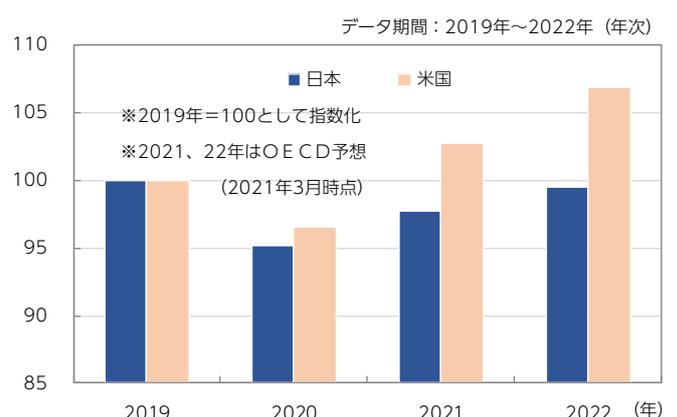
図表1：日米長期金利（10年国債金利）の推移



図表2：日米消費者物価の推移



図表3：O E C Dの日米実質GDP見通し



出所) 図表1~3はブルームバーグ、O E C Dのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>